

もっとも大きな違いは、神社は神道、お寺は仏教の施設であること。神道は、農業や漁業など自然との関わりの中で生きていた祖先が、恵みを与え、ときには猛威を振るう自然の中に神を感じ始まった信仰です。そして、神様が宿る木々や山、岩に建物をたて、いつでもお参りできるようにした場所が神社。日本人のライフスタイルそのものともいえるこの信仰は、6世紀に伝来した仏教と区別するため神道と言いますようになりました。



神社とお寺の違いって？

「神社」って、 いったいなに？

いまさら聞けない
だから知りたい！

令和4年が始まりました。
神社へ初詣に出かけた人も多いことでしょう。
しかし、そもそも神社とはなにか、皆さんはご存知でしょうか。
年の始めの今だからこそ、知っているようで実は知らない
神社についての知識を深め、
気分も新たに1年のスタートを切りましょう。

神様への感謝から生まれた人生儀礼

初宮詣は、子どもが誕生して100日頃迄をめどに行う神様へのご挨拶。七五三も体力的に弱い幼児の成長を感謝し、これからの無事を見守ってもらえるようにと祈ってお参りするものです。

初宮詣 七五三



時代の移り変わりとともに、神道との関わり方も少しずつ変化していきました。しかし、現代の暮らしの中に祖先たちの信仰心が息づいていることがあります。そこからは遙か昔の人々の暮らしぶりも垣間見えます。

厄年

体調が変化しやすく転機を迎えやすい時期に災難を避けるために受け継がれてきた知恵。「役」の意味もあり、神事の重要な役割を担うため心身を清浄に保つ必要がある歳でもあります。



地域の平和と発展を祈る 生活文化



左義長

正月飾りやお札などを燃やし、天の神様のもとへお返しするお焚き上げの儀式。地域によって異なりますが、1月15日の小正月前後に行われることが多いようです。

祭り

収穫や豊漁、無事に歳を重ねられたことに感謝し、神様へ捧げ物をしたことが始まり。地域の健康や地域の発展、さらには社会全体の繁栄を祈る儀式です。

生活習慣 入浴

身に付いたけがれをはらう「禊」文化が発展し、入浴による健康維持や病気治療の効果が庶民にも知られ広がったといわれます。世界に誇る日本人の清潔さの根本には、心身の清浄を保つことが神様に通じる尊い行いだという考えが受け継がれているのかもしれない。

暮らしの中にある神道



相撲 伝統文化

およそ1300年前にまとめられた「古事記」や「日本書紀」にも登場するほどの古い歴史は、力くらべが発祥だと考えられています。その年の収穫を占う儀式として継承されてきました。土俵には神が宿るとされ、柏手を打って入るのはそのため。また四股には、地を踏み鎮めるという意味もあります。



神社でお札をもらったら

お札は神棚に収めるのが正式な方法。しかし、あまり堅苦しく考えず、タンスやチェストなどなるべく高い場所を清潔にしまつればOK。お札をもらう＝神様を家に招くという意味があるため、家族が日々お参りしやすい場所を選ぶことも大切です。

取 材 協 力



石川県神社庁 参事
四柳 光樹さん
Kouki Yotsuyanagi

能登で神職を務めながら、県内1870の神社をまとめる石川県神社庁の業務も兼任。情報発信や地域活動などを行っている。
石川県神社庁：石川県金沢市小坂町西 44 番地
<https://www.ishikawa-jinjacho.or.jp>

教えてくれた人

いつも近くで守ってくれる一番の味方、氏神様。一定の地域を守ってくれる神社を氏神様といます。人生儀礼や初詣などはもちろんですが、もっとも身近な神様として、散歩がてらお参りするくらいの気軽なおつきあいを続けるのもいいでしょう。最近では、自分の氏神様を検索できるサイトもあります。



▲ 石川県神社庁のHPから神社を検索できます

※本ページ内の見解には諸説あります